



トムソン・ロイター

サードパーティーがもたらすリスク

エグゼクティブ・サマリー

収益力アップと業務効率化に向け、社外とのコラボレーションや非中核業務のアウトソーシング、新市場への進出によるグローバル化対応を進める企業が増加しています。こうした経営判断は経済的なメリットにつながる一方、サードパーティー（受託企業）による法的要件や想定される行動基準の遵守を徹底するうえで、コストがかさむ可能性にも注意を払う必要があります。

今日のビジネス環境では、自社内の活動にとどまらず、取引先であるサプライヤーや販売業者、パートナーの行動についても責任が求められます。このため、サプライヤーなどサードパーティーがもたらすリスクを知り、理解を深めておくことが極めて重要です。そこで、ビジネス・パートナーやサードパーティーの選定時のデューデリジェンス（事前精査）、継続的な活動モニタリング体制を含め、しっかりとしたリスク管理プログラムを導入する必要があります。

CONNECT, SIMPLIFY, PERFORM

トムソン・ロイターでは、統合プラットフォーム・アプローチの一環として、業界トップクラスのインテリジェントなデータやソフトウェアを提供しています。また、製品はモジュール化されているため、特定ニーズに対応する個別のソリューションとしても提供できます。お客様の組織の対応状況がどのような段階にあっても、トムソン・ロイターは、お客様が現在運用しているサード・パーティー・リスク軽減プログラムを補完し、効率化を進めてリスクベース・アプローチの効果を最大限に高めます。





サードパーティーを知ることの重要性

どの企業や組織も、サードパーティーの意図的な行為や意図しない行為によるリスクにさらされています。これは間接的な責任問題を問われるだけでなく、密接な関わり合いがあるが故の風評被害にも発展します。

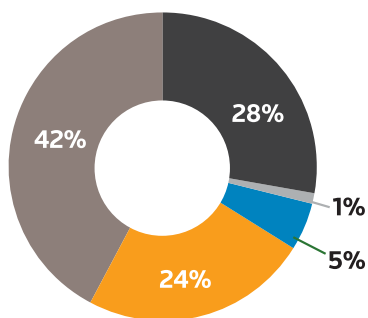
通常、長期的なビジネス目標の達成に向けてサードパーティーとの関係を構築・拡大していくと、複雑なサプライチェーンが生まれます。これが時間の経過とともに、まさしく織物のように複雑に絡み合った関係になります。この複雑な環境の中で取引相手の素性を把握することはますます難しくなっています。しかし、規制機関の意向に沿って行動し、株主や顧客の期待に応えるとともに、金銭的な損害や風評被害を回避するためには、取引相手の把握が不可欠です。

米国の連邦海外腐敗行為防止法（FCPA）や紛争鉱物規制（ドッド・フランク法）、英国の賄賂防止法や現代奴隷法を始め、世界各国のさまざまな規制を背景に、実効性あるサードパーティーのコンプライアンス・プログラムを確立する重要性が高まっています。政府や社

会、消費者ともに行動の根底には反腐敗、透明性確保、持続性の追求があるため、こういった規制が導入されるペースは上がる一方です。規制の下、サードパーティーとの取引関係の管理は、顧客との取引関係の管理と同じように重視しなければなりません。実際、規制機関がコンプライアンス違反に対する個人の責任を重視する傾向が強まっています。

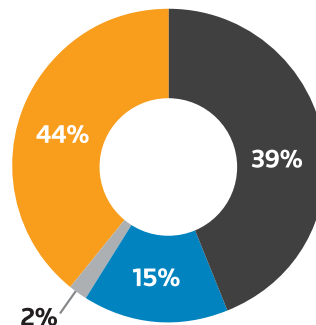
株主や顧客は、企業の評判を傷つけることなく、また良好な投資先としての状態を維持する意味でも、透明性の向上や、企業行動に対する責任を強く求めるようになっていきます。

* 今後 12 カ月間に規制機関や取引所が発表する規制情報の量は次のようになる見通しです。



- 現在よりも大幅に増加
- 現在よりもやや増加
- 現在と同水準
- 現在よりもやや減少
- 現在よりも大幅に減少

* 今後 12 カ月間にコンプライアンス専門担当者個人の責任は次のようになる見通しです。



- 現在よりも大幅に増加
- 現在よりもやや増加
- 現在と同水準
- 現在よりもやや減少

* トムソン・ロイターによる 2015 年度コンプライアンス・コスト調査より



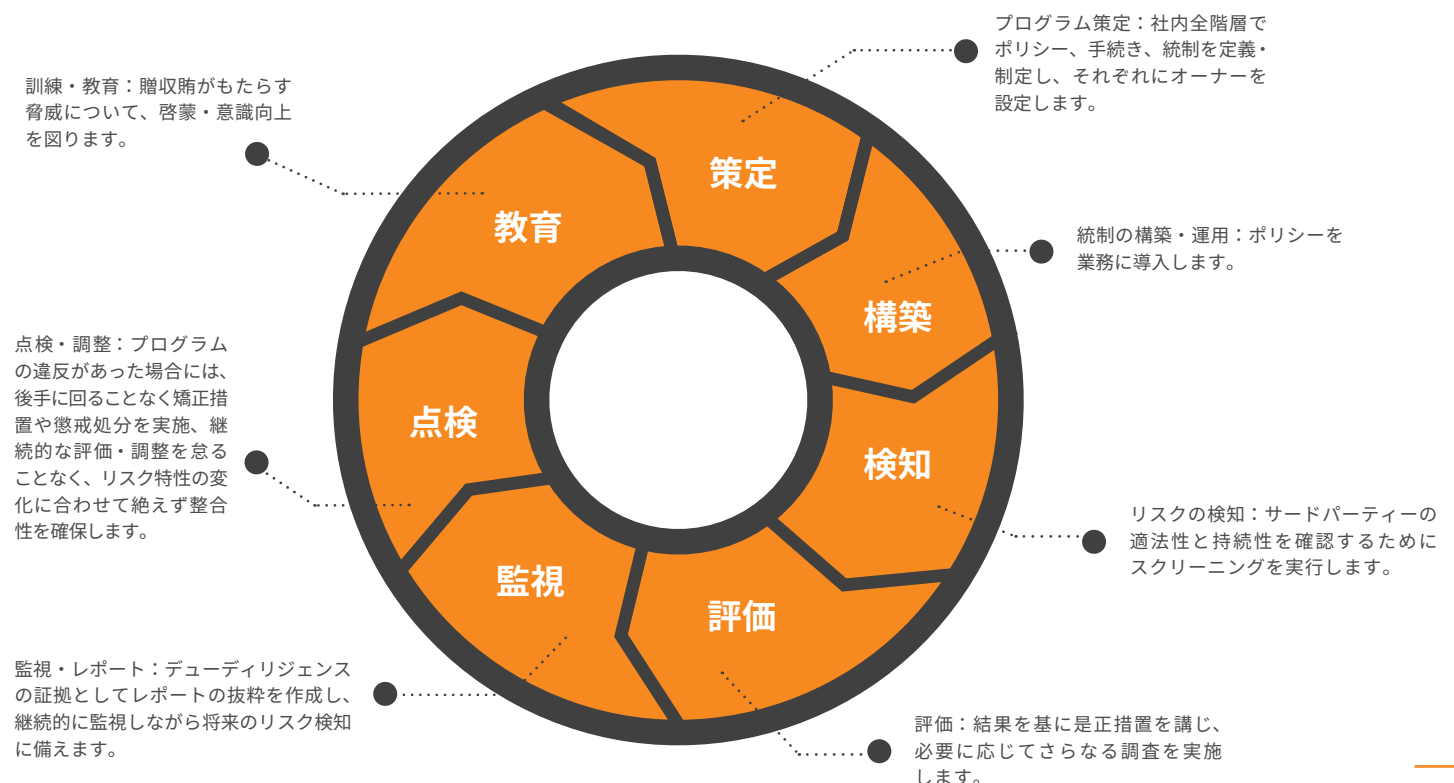
一般的なリスクの種類 とリスク軽減のための 枠組み

サプライヤーやサードパーティーのリスク管理に関して、万能薬的な解決策は存在しません。各組織が取引相手の事業内容を把握し、どのような場面でリスクが表面化するの理解しておく必要があります。また、そうしたリスクを検知するための仕組みづくりも重要です。具体的には次のようなリスクが考えられます。

- 贈収賄
- 強要・闇金融
- 組織犯罪
- 詐欺
- 偽造
- 不正取引
- 環境犯罪
- 紛争鉱物
- 人権侵害
- 奴隷・人身取引

事故を招く要因は、多くの場合、サプライチェーンの複雑化ではなく、管理、透明性、監視の欠如にあります。こうした要素は、サプライチェーンの川上から川下の最終消費者に至るまで、根幹をなすものと言えます。

サプライヤーやサードパーティーのリスクを回避し、必要に応じて検知・調査を実施するには、サードパーティー・リスクに対処するシンプルな枠組み導入が有効です。





さまざまな課題を網羅するソリューション

サードパーティーとの関係が組織の成否を左右することは言うまでもありません。インフラ投資を伴う労働力増強に頼らず、組織の目標達成に向けた支援をサードパーティーに担ってもらうことで、コスト削減やリソースの最適化につながります。しかし、その一方、こうした関係はそれ相応のリスクを伴うため、管理には細心の注意を払う必要があります。今まさにこのような対応が求められているのです。規制環境は、サードパーティーとの関係について厳格化や統制強化がますます求められており、管理上の課題は今後一層複雑になっていく見通しです。

企業はこのような複雑な関係を抑制し、高まる一方の規制圧力に対して、その場しのぎではなく、先回りして確実に対応できる体制を築く必要があります。これはコスト管理に大きな効果を発揮します。特にサードパーティー・リスクの管理ソリューションが細分化されていて、複数のベンダーから提供を受けている場合にその効果は顕著です。ベスト・プラクティスとされるサードパーティー管理ソリューションを全面的に取り入れたサービスに一本化すると、大きなメリットが期待できます。また、ソリューションの構成要素が相互に連携して動作するよう設計されている場合、組織特有のニーズに合わせてサービスを調整することも非常に簡単になり、リソースや統制のコストを効率化できます。

サードパーティーがもたらすリスクについて、効果的な管理方法を心得ておくこと。それが、揺るぎないサードパーティー・リスク・プログラム構築への近道なのです。

一貫性のあるサードパーティー・リスク管理ソリューションの構成要素

トムソン・ロイターは、サードパーティーがもたらすリスクの軽減に先進のアプローチで取り組んでいます。これまでに、信頼のおける多彩なアセットを使い、トムソン・ロイターならではの幅の広さと専門知識を生かしたグローバルなサードパーティー・リスクの対応策を打ち出してきました。さまざまな領域・業務における顧客やサードパーティーとの取引の際、こうした対応策がリスクの見極めに威力を発揮します。この結果、リスクベースのアプローチが実現し、次のような対応が可能になります。

- リスクの把握と機会の見極め
- 業界トップクラスのインテリジェンスによる豊富な情報を基にした対策
- 業界の規制への的確な対応
- 価値の向上につながるベストプラクティスの導入
- 業務の効率化とコスト削減
- 既存のサプライヤーやサードパーティーのコンプライアンス・プログラムの効率化と効果促進

トムソン・ロイター・ワールドチェック

ワールドチェックは、取引関係や人脈の中に潜むリスクを明らかにします。その結果は、グローバルな規模でリスクの高い個人・組織について、高度に構造化されたインテリジェンス・プロフィールの形で提供されます。240以上の国・地域を対象に60以上の言語に対応、世界のあらゆる地域に展開するリサーチ・アナリスト、テロや組織犯罪、中東などの各種専門家による調査を生かし、KYC、AML、CFT、PEPのデューデリジェンスの条件を満たす体制を整えています。

トムソン・ロイターでは、400以上の制裁リスト、監視リスト、規制執行リストと膨大な数の情報源をモニタリングしていますが、リスクの高い組織がリストに掲載されるタイミングよりも数カ月早く、場合によっては数年早く独自に特定することも少なくありません。2014年だけでも、米国財務省外国資産管理局（OFAC）リストに掲載される前から、トムソン・ロイターはすでに202以上の組織を特定していました。現在、主な制裁対象となっているテロリストのカバレッジは、記録件数ベースで8万件以上上回っています。ワールドチェックには、児童労働・奴隷労働、密入国、性的搾取目的の人身取引、その他の人身取引に関連のあるプロフィール12000件以上が収められています。スクリーニングの際、ワールドチェックを利用することで、コンプライアンスのコストを最小限に抑えることができます。

トムソン・ロイター・スクリーニング・レゾリューション・サービス

スクリーニング・レゾリューション・サービス（SRS）は、マネージド・スクリーニング・サービスです。トムソン・ロイターが貴社に代わってスクリーニングを実施し、是正策を講じることにより、所定の条件に合致しそうな高リスクの個人・組織を見つけ出します。貴社の取引先であるサードパーティーを対象に、オンボーディング業務を実施し、ワールドチェックやカントリー・リスク・ランキングによる検証、条件に合致した個人・組織に対するエンハンスト・デューデリジェンス（EDD）バックグラウンド・チェックの実施、品質保証プロセスの適用確認、各ステップでの総オペレーション・コスト削減のためのチェックポイント設定を通じ、完全な監査証跡を規制機関に提示できます。

トムソン・ロイター・カントリー・リスク・ランキング

カントリー・リスクに関する詳しい情報力があれば、コンプライアンス・チームがリスクベース・アプローチを効率的に確立できるだけでなく、ワールドチェックによる定型的なサードパーティーのデューデリジェンス作業も処理しやすくなります。現行のテリトリー域外への事業拡大やテリトリー域外のサードパーティーとの取引を決定する際、カントリー・リスク・ランキングで関連リスクを把握できます。所在地に関わるリスクを正確に把握し、サードパーティーのデューデリジェンスの証拠を規制機関に提出できます。

トムソン・ロイター・エンハンスト・デューデリジェンス

エンハンスト・デューデリジェンス（EDD）レポートは、いかなる組織や個人であっても、その所在地を問わず、詳細な背景情報の取得や健全性チェックを経済的に実行できます。業務遂行状況や評判の履歴を分析し、不測の債務の有無を徹底的に調査します。規制機関や業界筋、サプライヤー、競合他社、ディストリビューター、既存顧客・元顧客からビジネス・インテリジェンスを収集します。EDDレポートは、テロ、贈収賄、PEP、紛争鉱物、奴隷、武器取引、人身取引に関する具体的なリスクを対象としています。個人や組織にこうしたリスク・タイプの警告が出た場合、リサーチ・アナリストがスタンダード版とプレミアム版のレポートで定期的に調査します。

トムソン・ロイター・コンプライアンス・ラーニング

コンプライアンス・ラーニング・コースは、実務に重点を置いた対話型のコンプライアンス・トレーニング・プログラムで、カスタマイズにも対応し、コストパフォーマンスに優れています。行動様式を改め、健全性第一の文化を後押しする効果があります。現在、42言語で800以上の倫理・コンプライアンスのトレーニング・コースが提供されており、いずれのコースも、世界の500を超える規制機関や取引所を追跡調査している世界トップクラスの規制インテリジェンスを活用しています。

コースの導入に当たっては、自由度が高く使いやすい学習管理システムを使用します。これはWebベースのソリューションで、コンプライアンスやリスクのトレーニングの管理、記録、レポートを最適化し、コンプライアンスの証明となる完全な監査証跡を確保できます。

サプライヤー・オンボーディングのアンケートとプラットフォーム

トムソン・ロイターでは、業界をリードするサードパーティー・オンボーディング用ソフトウェア・プラットフォームと提携しており、トムソン・ロイターの製品やサービスとの連携が可能です。これに、デューデリジェンスのためのアンケートや分析を組み合わせ、サプライヤーとの関係に潜むリスクの評価・分類に使えるほか、組織のリスク許容度に適合させることも可能です。サードパーティー・コンプライアンスのプロセスやワークフローの合理化に取り組む多くの組織の間では、トムソン・ロイターの統合技術や情報ソリューションが選ばれています。こうした技術やソリューションは、ガバナンス、リスク、コンプライアンスに関して一貫性のある事前対応型の戦略策定に役立つことができます。

